



2. 顔回と学問：『論語』についての対話

中川，雅道

(Citation)

「哲学資源としての漢文教材と学び方の開発に関する基礎的研究」報告書:107-123

(Issue Date)

2025-03-25

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100495462>



第二章 哲学資源を主体的に学ぶ——対話的学びの実践例——

第1節 子どものための哲学（p4c）による授業デザインの理論と実践

2. 顔回と学問 ——『論語』についての対話——

Yan Hui and His learning -Dialogue on *the Analects of Confucius*

中川 雅道

NAKAGAWA Masamichi

本稿は、漢文の授業の実践報告である。『論語』のテキストを読解し、考えを深め、その経験をもとにして問いを立てた。子どものための哲学のスタイルで「短命で死ぬことは不幸なのか」「顔回が苦と感じたのは何だったんだろう」という問いについての議論を行い、様々な意見について考えを交わした。

This report is a lecture plan on Chinese classics. We read some texts from the Analects of Confucius. From these experiences children raised their questions. In the style of philosophy for children, we discussed about following question. “Why (Yan Hui’s) short life is unfortunate/unhappy?”, “What was Yan Hui’s suffering?”

キーワード：子どものための哲学、哲学対話、国語教育、言語文化、『論語』

Key words: philosophy for children, philosophical dialogue, Japanese language education, Language culture, The Analects of Confucius

2024年11月1日、及び11月2日に「子どものための哲学ハワイスタイル in 日本&台湾 授業参観・シンポジウム」（会場：神戸大学附属中等教育学校）と題して、公開授業とシンポジウムを行った。立教大学の渡邊文さんにイベントの全体をコーディネートして頂き、ハワイ大学上廣アカデミーからはベンジャミン・ルーキーさん、国立嘉義大学からは王清思さんが来校された。

本稿は、その際に作成した指導案を報告書の形にまとめたものである。神戸大学附属中等教育学校の中学校1年生「国語」、中学校3年生「国語」（中等教育学校の特例により「言語文化」を1単位移行）高等学校3年生「文学国語」で行った単元の実践が主たる内容である。単元構成、教材、学習方法について、次ページ以降の学習指導計画にまとめている。

今回の指導案では、できる限り学校現場で活用できるように、授業で使ったワークシートをそのまま掲載することとした。いずれの教材もまだまだ探求の余地がある。注釈書を参考にして、『論

語』の本文についての注釈が対話体になるように作成している。

一日目には、30名を越える参加者が来校され、本授業実践について、さまざまな角度からコメントが寄せられ、有益な教育研究を行うことができた。二日目には、渡邊文さん、王清思さん、そして筆者から、子どものための哲学についてのプレゼンテーションを行い、日本と台湾の置かれている状況、さらには子どものための哲学の価値について対話が行われた。

『論語』の内容を「哲学者の教育学」という考え方を適用し、教材にした今回の取り組みが、成功しているかどうかは、読者の判断に委ねられている。

『論語』についての対話

指導者 中川 雅道

日 時 2024 年 11 月 1 日(金) 公開授業 1 (11:40~12:30) 公開授業 2 (14:10~15:00)

場 所 ラーナーズ・アゴラ

1 単元の設定にあたって

(1) 生徒について（「意識調査をもとに」）

単元実施に先立ち行った事前調査の結果から、漢文教材についてはそれほどの興味を感じていないが、子どものための哲学 p4c については多くの生徒が肯定的に捉えていることがわかる。p4c への肯定的な意見のもっとも大きなものは、他の人たちの意見を聞くことができるので楽しい、というものだ。他方で、漢文についてはその内容が重要であることは理解できるが、難しい読み方の漢字、訓読の複雑なルールが生徒たちの苦手意識を生んでいると判断できる。

＜アンケート結果＞（2024 年 10 月初旬／対象：1 年生、3 年生、6 年生／回答生徒数：266 人）

質問1：漢文を学ぶことは好きですか？

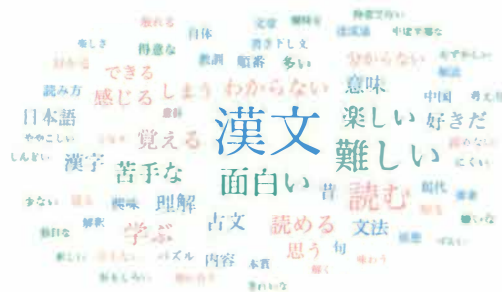
とても好き 13 名 (4.9%) 好き 40 名 (15.1%) どちらでもない 87 名 (32.8%) 好きではない 83 名 (31.3%) とても好きではない 42 名 (15.8%)

質問2：子どものための哲学 p4c の対話の時間は好きですか？

とても好き 78 名 (29.5%) 好き 125 名 (47.3%) どちらでもない 53 名 (20.1%) 好きではない 7 名 (2.7%) とても好きではない 1 名 (0.4%)

質問1の理由の自由記述をテキストマイニング

質問2の理由の自由記述をテキストマイニング

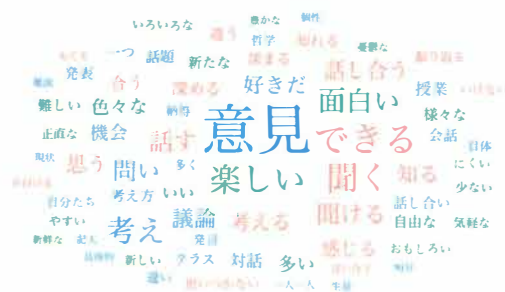


以下のような回答があった。

漢文は面白いが漢文のルールを覚えるのが嫌だから。

むずかしくて、将来使わなさそうだから

漢文には人生の教訓が書いてあり、興味深い。



以下のような回答があつた。

対話によって色々な人の意見が聞けて楽しいから。

考えを深められる。

好きなものについて探求するのは楽しいから

伝統的な言語文化について、古典の学習を多くの大学生が嫌っているという報告が日本学術会議からなされている（日本学術会議提言「高校国語教育の改善に向けて」2020年、<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t290-7-abstract.html>）。古典の学習の本質に触れるためには、これまでの学習方法では不十分であることは、今回の生徒アンケートからも言えるだろう。必要なのは、訓読を含む伝統的な言語文化についての知識観の更新ではないだろうか。

(2) 学習方法について（「子どものための哲学」と「哲学者の教育学」について）

子どものための哲学 philosophy for children (= p4c) と呼ばれる教育を実践する。p4c の中でも特に Hawai'i で育まれてきた、教室の知的な安全性 intellectual safety (すべての仲間たちへの敬意が守られる限りで、どんな発言でも、どんな質問でもしていい) を重視する方法で対話を行う。教員も含め、クラスのコミュニティ全員で輪になって座り、コミュニティボールと呼ばれる毛糸玉を用いて「ボールを持っている人が話す」というルールで話し合う。発言をパスする権利(考えがまとまっていない時には無理に話さなくてもいい) も認め、We are not in a rush (急がなくてもいい) ことを大切に話し合う。

p4c Hawai'i では「小さな哲学 little p」という考えが大切にされている。固有の内容と活動をもつ学問領域としての「大きな哲学 Big P」(多くは歴史上の哲学者の残した文章の文献研究)とは異なり、小さな哲学は、私たちが世界を理解するためにもつ信念を内容とし、それらの信念をより大きなコミュニティの中での相互作用の中で再検討することが活動になる。その小さな哲学を教育現場で実践するためには以下の6つのことが重要である(哲学者の教育学 The Philosopher's Pedagogy より)

1. 教員自身が吟味された生を生きる
2. 教育とは教員と生徒とが共有する活動である
3. 内容は、参加者の信念、経験と教材、主題との相互作用である
4. 哲学とは、教育の一般理論のことである
5. 哲学を教室での生き生きとした実践にすること(セーフティ、コミュニティボール、など)
6. 教室を評価するときに、現在の評価基準に挑戦すること

また、評価については、対話前と対話後に記入したワークシートを評価材として使用している。評価基準については、p4c Hawai'i の研究成果を参考にし、作成したものをベースにして、4月に生徒たちと授業の中で議論し、今年度のルーブリックを作成した。評価についての詳しい経緯については、次の論文にまとめている。中川雅道「子どものための哲学を評価する——ルーブリックを用いた相互評価」『思考と対話』2023年 (https://philopracticejapan.jp/wp-content/uploads/2023/07/nakagawa_article.pdf)。

今年度のワークシート、ルーブリックについては、参考資料として添付する。

(2) 教材について

本単元は、哲学対話を啓くための漢文教材を開発する研究の一環として実施する。上記した学習方法に従いつつ、『論語』のテキスト、注釈、英訳を読み、テキストの内容を吟味する中で、自分なりの問いが生じる場面を主眼とする。

『論語』からは、弟子である顔回についての章段のいくつかを選定した。数ある弟子の中でも、孔子は顔回をもっとも称揚した。それらの章段では、顔回の特性と語りながら、実は「学ぶこと」の理想像が語られている。生徒たちが普段触れている学習観とは、ずいぶんと距離のある考え方を読解することで、さまざまな問いを触発するだろう。

外国語としての漢文を、漢字の意味を調べることで再生するというやり方でこれらの漢文を扱う。原文の意味は実は未確定であることを説明し、各種の注釈を対話体で再生することで、テキストと対話的に関われるように配慮した。とにかく、漢文の授業は訓読中心になりがちだが、今回はあえて訓読せず、訳文を考えることを中心として、問いが生まれる環境を整えることを中心とした。

2 単元の構成

(1) 単元の学習目標

『論語』の言葉をヒントにして、考えを深めることができる

(2) 単元の位置

本単元は、「国語」の授業として実施する。内容としては、高度なものも含むため今後は「言語文化」「古典探求」で扱う可能性もある。

(3) 単元のねらい

- ① 漢文教材の内容を読み、問い立てて対話する活動を通して、教材に対して自分なりの問いを向け、考えを深めていく力を養う。
- ② 資質・能力育成の重点（中学国語・3年より抜粋）

I 知識・技能	II 思考力・判断力・表現力	III 学びに向かう力、人間性など
我が国の言語文化に関する事項 ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと ウ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解すること	A 話すこと・聞くこと エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすること B 書くこと イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること C 読むこと ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う

(3) 単元の展開と評価（全13時間）

時	各時の主題	各時の問いと主な活動	各時のねらい(評価の場面)	評価の観点
1時	訓読	漢文学習についての事前調査 返点のルールの確認	返点通りに訓読することができる	B
2時	天喪予	テキスト、注釈、英訳を読み、漢和辞典で漢字を調べる	漢字の意味を読解に生かすことができる	C
3時	不遷怒・陋巷	テキスト、注釈、英訳を読み、自分なりの現代語訳、問いを考える	テキストを解釈し、問いを立てることができる	C
4時	現代語訳・問いの発表	現代語訳・問いを小集団ごとに発表する 問いを投票で一つに選ぶ	発表を聞き、解釈について考えることができる 問いを選ぶことができる	A
5時 (本時)	p4c「顔回が苦と感じたのは何だったのだろうか(1-1)」 「短命で死	問いについて対話を行う。他のクラスの問いについては以下の通り。 「なぜ頭のいい人は頭のおかしい行動をするのか(1-2)」	話を聴きながら自分の考えを深めることができる (ルーブリック参照)	A

	ぬことは不幸なのか (3-1) 」	「漢文は日本人に必要なか (1-3) 」 「学問を心から楽しむとは何か (3-2) 」 「お金をもっていたら幸せなのか (3-3) 」 「成功体験 vs 失敗体験 (6-文学国語) 」		
6 時	不違如愚	テキスト、注釈、英訳を読み、自分なりの現代語訳を考える	テキストを解釈することができる	C
7 時	現代語訳・問いの発表	現代語訳・問いを小集団ごとに発表する 問いを投票で一つに選ぶ	発表を聞き、解釈について考えることができる 問いを選ぶことができる	A
8 時	p4c 「「愚か」の定義とは (1-1) 」 「愚かな人と天才な人は紙一重なのか (3-1) 」	問いについて対話を行う他のクラスの問いについては以下の通り。 「人によって態度を変えるのはよくないのか (1-2) 」 「顔回をはてるのか (1-3) 」 「社会にはこびる愚者の特徴とは (3-2) ママ」 「アホ＝バカなのか (3-3) 」 「愚者とはだれか (6-文学国語) 」	話を聴きながら自分の考えを深めることができる (ルーブリック参照)	A
9 ～ 10 時	「学」について的小論文	「学」についての問いを自ら設定し、小論文にまとめる活動を行う	これまでの学習を書くことに繋げることができる	B
1 1 時	小論文相互評価	前時に作成した小論文を小集団で発表し、優秀作をクラス全体に発表する	小論文を発表できる	A
1 2 ～ 1 3 時	小論文リライト	前時の活動を受けて、自分の小論文をより良い形にリライトする	小論文を修正できる	B

(5) 評価の観点

- I 知識・技能 III 学びに向かう力・人間性など は全時に含まれる
- II 思考力・判断力・表現力 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むことを示す

3 本時の学習 (5 時)

(1) 本時の 主 題 子どものための哲学

(2)本時のねらい 問いについて考え、自分なりに考えを深めることができる。

	I 知識・技能	II 思考力・判断力・表現力	III 学びに向かう力、人間性など
	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。	A 話すこと・聞くこと 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

(3)教材について・方法について

論語を読み、クラスで立てた問いについて対話する。

(4) 本時の展開

時	学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
---	-------	-------	------------

0	フルーツバスケット (おおあらし)	○席の偏りを解消する／アイスブ レークのための簡単なゲームを 行う	○楽しむ。
5	問い、対話のルール の確認	○問いを立てた人が意図を説明。対 話のルールを再確認する。	○問いの意味を明確にしておく。
10	問いについての対話	○コミュニティボールを用いて、問 いについての考えを話し、他の人の 考えを聴く。	○教員自身も対話に参加し、自分なり に考えを深める。 ○意味、理由、例、推論、前提といっ た論理的な展開に注意し、必要があ れば質問する。
45 50	ワークシート記入	○対話の内容を振り返り、記入す る。	○対話の中で気になって発言がある場 合は個別に声をかける。

(5)評価の目安

A (十分に満足できる)	B (おおむね満足できる)
他の人の考えを聴き、原文の内容について考え、自 分なりに内容を深めることができる。	他の人の考えを聴き、自分なりに考えを深めるこ とができる。

【参考資料】

井波律子『完訳論語』岩波書店、2016年。

太田亨『『論語』の授業における一視点（2）』『愛媛国文と教育』2018年。

岡寄友一、小路口真理美「漢文の翻訳におけるプロセスジャンルアプローチの試み」『教育学研究紀要』2020年。

小路口聡「過ちに気づくということ——王畿の改過論」『陽明学』2020年。

小路口聡『王龍溪の良知心学——「生機」論という視座』研文出版、2023年。

小路口聡『「即今自立」の哲学——陸九淵心学再考——』研文出版、2006年。

吹野安、石本道明『孔子全書 1』明德出版社、1999年。

小路口真理美『『対話から学ぶ力』を育む漢文の授業をデザインする——杜甫「唐故万年県君京兆杜氏墓誌」の問いを知識
構成型ジグソー法で解く——』『大阪教育大学紀要 総合教育科学』2022年。

中川雅道「子どものための哲学を評価する——ループリックを用いた相互評価」『思考と対話』2023年。

日本学術会議提言「高校国語教育の改善に向けて」2020年。

吹野安、石本道明『孔子全書 3』明德出版社、2000年。

吹野安、石本道明『孔子全書 6』明德出版社、2001年。

渡邊義浩『全訳論語集解 上巻』汲古書院、2020年。

渡邊義浩『全訳論語集解 下巻』汲古書院、2020年。

Amber Strong Makauau and Chad Miller, *The Philosopher's Pedagogy, Educational Perspectives*, University
of Hawai'i at Mānoa, 2012.

Educational Perspectives, University of Hawai'i at Mānoa, 2012.

https://p4chawaii.org/wp-content/uploads/2012_11_15_Philosophy-for-Children1.pdf

Confucius, *The Analects (Lunyu)*, translated by Annping Chin, Penguin Books, 2014.

次頁からは、授業で使ったワークシートを掲載している。

原文 (白文)

顔 淵 死 子 曰 噫 天 喪 予 天 喪 予 (先進 11—9)

書き下し文

顔淵死す。子曰はく、噫、天^あ予^{てんわれ}を喪^{ほろ}ぼせり、天^{てんわれ}予^{ほろ}を喪^{ほろ}ぼせり、と。

顔淵死、とあるけど、これって痛々しい声だね。顔淵が死んだから使いを派遣して孔子に伝えたんだ。孔子もこれにはこたえた。だから噫と言っ
たんだね。

(皇侃さん 488年-544年)

天喪予って、自分が死んだようなものだってことだ。2回も言ったということは本当に苦しかったってことだ。

(何晏さん ?年-249年)

喪って亡のことで、予って我のことだ。
聖人が世の中に現れたら誰かが必ず助けてくれる。天が雨を降らせる時には、山や川が雲を生んで助けてくれる。顔淵が死んでいなかったら、孔子の唱えた道もまだ希望があった。でも、顔淵は死んでしまった。だから、孔子の唱えた道もいっしょに滅んでしまったんだ。

(皇侃さん 488年-544年)

現代語訳

顔淵が亡くなった。孔先生がおっしゃるには、「(私が道のすべてを託した顔淵が旅立ったとは) ああ、天は私を亡きものとしたのだ。天は私を亡きものとしたのだ」と。

英訳

When Yan Yuan [Yan Hui] died, the Master cried out, "Oh, Heaven is destroying me! Heaven is destroying me!"

調べてみよう

「天」「道」「噫」「予」「喪」など、気になった漢字の意味を調べてみよう？
これらの漢字はどんな意味を持つでしょうか？経験から考えてみましょう。
あなたならもとの漢文をどんな風に翻訳しますか？

問いを立ててみましょう

年 組 番 名前

原文（白文）

哀公問弟子孰爲好學孔子對曰有顔回者好學不遷怒不貳過不幸短命死矣今也則亡未聞好學者也（雍也6—3）

書き下し文

哀公あいこう問とふ、弟子でいしたれ孰がくか学このを好なむと爲す、と。孔子こうし對こたへて曰いはく、顔回がんかいといふ者もの有あり。学がくを好このみ、怒いかりを遷うつさず、過あやまちを貳ふたたびせず。不幸ふこう短命たんめいにして死しせり。今いまや則すなわち亡なし。未いまだ学がくを好このむ者ものを聞きかざるなり、と。

顔回は魯の出身。29才で髪が真っ白になって、30才で亡くなった。その時、孔子は61才だった。

（司馬遷さん 前145-?年）

顔回は不善があれば、すぐにわかった。不善があつたら、もう一度することはなかった。

（刑昺さん 1130年-1200年）

顔氏の怒りの原因は対象のほうにあるのであって、自分の感情の中にあるわけではない。だから他のものに移るはずなどないのだ

（朱熹さん 1130年-1200年）

怒っても分をすぎなかった。遷は移であつて、怒りを移すことがなかった。

（何晏さん ?年-249年）

現代語訳

哀公が、「そなたの門弟では、一体誰が学問好きだと思っておられるか」とおたずねになった。孔先生がお答えして申し上げるには、「顔回と言う者がおりました。わが実践の学を心から楽しんで身につけようと努力を怠らず、他の怒りを別人に八つ当たりすることもなく、一度犯した過ちを二度と繰り返すこともありませんでした。それなのに不幸なことに、短命で亡くなりました。今はもうこのような門弟はおりません。その後は、学問を心から楽しんでいると言う者の名を、まだ耳にしておりません」と。（生徒配布用は網掛の箇所を空欄にしている）

英訳

6.3 Duke Ai asked, "Who among your disciples love learning?"

Confucius responded, saying, "There was Yan Hui, who loved learning. He did not transfer his anger elsewhere, and he did not repeat a mistake. But unfortunately he had a short life and is dead now. Since his death, there is no one left who loves learning—at least I haven't heard of anyone."

空欄の現代語訳を自分なりに書いてみてください

これまでの学習活動から、問いを立ててみましょう

上の問いを立てた理由を説明してみましょう

年 組 番 名前

原文（白文）

子曰賢哉回也一簞食一瓢飲在陋巷人不堪其憂回也不改其樂賢哉回也（雍也6—11）

書き下し文

子曰はく、賢なるかな回や。一簞^{いったん}の食^し、一瓢^{いっぴょう}の飲^{いん}、陋巷^{ろうこう}に在り。人は其の憂^{うれ}ひに堪へず。回や其の樂^{かい}しみを改^{あらた}めず。賢なるかな回や、と。

簞も瓢もどちらも竹で作られた器で、簞が丸くて瓢が四角い
(刑昺さん 1130年-1200年)

食べ物が粗末で、貧しいところに住んでいたのに、楽しんでいて、長い時間が経っても変わらなかった
(皇侃さん 488年-544年)

顔子は簞瓢陋巷そのものを楽しんだわけではない。貧乏だからといって、自分の樂しみを改めようとしなかったただけだ。其樂の「その」を玩味すべきだ。自ら深く考えて、自分自身でその答えを探し出すべきなのだ。
(朱熹さん 1130年-1200年)

現代語訳

孔先生がおっしゃるには、「優れた人間だなあ、顔回は。わずか一膳のめしと一椀の汁だけで、しかも狭苦しい裏町に住んでいる。普通の人では、こんな苦勞に堪えられるものではない。しかし顔回は、その中であって、人として生きるべき學問追求の樂しみを、心から味わっている。実にすばらしい人間だなあ、顔回は」と。(生徒配布用は網掛の箇所を空欄にしている)

英訳

The Master said, "What an extraordinary man was Hui [Yan Hui] ! Living in a shabby neighborhood on a bowlful of millet and a ladleful of water—most people could not have endured such misery, but Hui did not let it take anything away from joy. What an extraordinary man was Hui!"

空欄の現代語訳を自分なりに書いてみてください

これまでの学習活動から、問いを立ててみましょう

上の問いを立てた理由を説明してみましょう

年 組 番 名前

原文 (白文)

子曰吾與回言終日不違如愚退而省其私亦足以發回也 不愚 (為政2—9)

書き下し文

子曰はく、吾回と言ふ。終日違はざること愚なるが如し。退きて其の私を省すれば、亦た以て発するに足る。回や愚ならず、と。

孔子の言うことに質問をせず黙っているのが愚者のようだったってことだ
(何晏さん ？年-249年)

省は視のことで、其の私というのは顔回と友人たちが話している様子のことだよ
(何晏さん ？年-249年)

「不違」とは心が背くことがなく、すんなり聞き入れ、疑問を抱いたり、意義を唱えたりすることがないということだ。「私」は私室でくつろいでいる時であって、先生に對面している時ではない。「發」は先生が話した道理を理解 (実践) できることを言う。

(朱熹さん 1130年-1200年)

現代語訳

孔先生がおっしゃることに、「顔回と一日じゅう話していても、私の意図に反対することも対立することもなく、おとなしく聴き入れるばかりで、まるで愚かしい人のようにも思われた。けれども私の前から退いて一人になった顔回の寛いだ姿を観ると、やはり私の教えた道について理解が深まっている様子で啓発するのに十分な資質を持っている。回は愚かではない」と。(生徒配布用は網掛の箇所を空欄にしている)

英訳

2.9 The Master said, "I can speak of Hui [Yan Hui] all day, and he does not disagree with me or question what I said. Thus it seems as though he were stupid. But afterward, when I observe what he does on his own, I realize that he is able to give full play to what he has learned. Hui is not stupid at all."

空欄の現代語訳を自分なりに書いてみてください

これまでの学習活動から、問いを立ててみましょう

上の問いを立てた理由を説明してみましょう

年 組 番 名前

良い例	悪い例

1

5

6

7

1

ルーブリック（相互評価のための基準）

①	②	③	④	⑤
名前がない。 ワークシートを完成させることができなかった。 ほかの人が読めない文字で書いている。 マークがうまくできていない。 対話に集中していない。 寝ている。 他の人を煽る発言をする。 コミュニティボールを丁寧に扱わない。 笑わせようとしてすべった。 ルーブリックに縛られすぎている。 <u>これらの項目については評価の時間にマークシートを書き直してもよい。書き直せば②になる。</u>	次の基準のうち1つ	次の基準のうち2つ	次の基準のうち3つ	次の基準のうち4つ
	① 意欲に関わるもの 対話を楽しんでいる 熱意がある p4c から何かを学んでいる ② 思考のスキルに関わるもの 定義、意味を明確にして書いている 理由を書いている 具体例、証拠を書いている 反例を書いている 考えの前提を明らかに書いている 推論の帰結を書いている 本当かどうかを吟味して書いている ③ 自他の意見に関わるもの 意見の違いを比べている 反論だけでなく代替案がある 他人の考えがある 他人の意見についての意見がある 考えの変化がある 独創的な考え方をしている ④ 生活とのかかわりに関するもの 自分の経験がある 教材を生活とつなげている 新しい疑問がある 今後の展望がある 抑圧（支配）から解放されている			

小論文課題

これまで読んだ文章をもとにして、小論文を作成してください。
大きくは、学がテーマになりますが、そこから自由に問い、課題を自分自身で設定してください。

評価のためのルーブリック

- ① メモのとりかたが適切である
- ② 記述量が十分である
- ③ 論理構成がよく練られている
- ④ 段落分けをして全体を構成している
- ⑤ 例が適切である
- ⑥ 創造的な論理展開になっている

以上の基準をもとにして、書かれた小論文を

S

A

B

C

に大きく分類し、評価します

メモ

20 × 20